

高崎北高校図書委員会

本のむし

令和4年度第7号 2022年12月13日発行
読書週間特集3

ゲームばかりじゃなくて本も読もう

今月の1冊

新着図書案内 12月

『366日 風景画をめぐる旅』

☆冬季休業中の開館日

12月26日(月)、27(火)、1月5日(木)、6日(金)

開館時間 9:00~15:50

☆冬季特別貸出について

12月12日(月)~27日(火)

上限冊数:10冊、貸出期限:1月10日(火)までの貸し出しができます。

「気になる作家やシリーズをまとめて読みたい!」をこの機会に…

☆貸出中の本を整理しましょう!

図書館から借りている本をいま一度、確認しましょう。読み終えた本や貸出期限の過ぎた本は速やかに返却してください。引き続き借りたい場合はカウンターで延長手続きを行きましょう。また、督促状が届いた3年生は冬季休業に入る前に忘れずに返却してください。詳しくは図書館までお問い合わせください。

書名	著者名	出版社	請求記号
調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス	小林昌樹	皓星社	002
わたしは「ひとり新聞社」岩手県大槌町で生き、考え、伝える	菊池由貴子	亜紀書房	070
なんでも見つかる夜に、こころだけ見つからない	東畑開人	シマタ	146
続 多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。孤独も悪くない編	Jam	ミンチュア出版	159
人類の物語	ユヴァル・ノア・ハラリ	河出書房新社	209
逆説の日本史27 明治終焉編	井沢元彦	小学館	210
一冊でわかるタイ史	柿崎一郎	河出書房新社	223
文藝春秋オピニオン2023年の論点100	文藝春秋	文藝春秋	304
ふたつの日本「移民国家」の建前と現実 講談社現代新書	望月優大	講談社	334
たぐいまれい数学	吉田武	集英社インターナショナル	410
地図を作った男たち	山岡光治	KADOKAWA	448
看護師の一日 医療福祉の仕事見る知るシリーズ	WILLこども知育研究所	保育社	498
からだにいいってホント? 食品でひく機能性成分の事典	中村宜督	女子栄養大学出版社	498
図解入門 よくわかる最新土木技術の基本と仕組み	五十畑弘	秀和システム	510
美しいねりきり	桔梗有香子	日東書院本社	596
日本が飢える 幻冬舎新書	山下一仁	幻冬舎	611
366日 風景画をめぐる旅	海野弘	バイインターナショナル	723
日々臆測	ヨシタケシンスケ	光村図書出版	726
ダビド・ビジャのサッカー講座	ダビド・ビジャ	KADOKAWA	783
語学の天才まで1億光年	高野秀行	集英社	807
漢字が日本語になるまで ちくまQブックス	円満字二郎	筑摩書房	811
小論文これだけ! 人文・文化・思想・芸術・歴史 深掘り編	樋口裕一	東洋経済新報社	816
ワンダーランドに卒業はない	中島京子	世界思想社	909
赤ずきん、ピノキオ拾って死体と出会う。	青柳碧人	双葉社	913.6
光のとこにいてね	一穂ミチ	文藝春秋	913.6
君のクイズ	小川哲	朝日新聞出版	913.6
ぼくらは、まだ少し期待している	木地雅映子	中央公論新社	913.6
さよならの言い方なんて知らない。7 新潮文庫nex	河野裕	新潮社	913.6
凍りのくじら 講談社文庫	辻村深月	講談社	913.6
川のほとりに立つ者は	寺地はるな	双葉社	913.6
「羅生門」55の論点	三宅義藏	大修館書店	913.6
作家の口福 おかわり 朝日文庫	朝井リョウほか	朝日新聞出版	914.6
ミス・マーブル最初の事件 創元推理文庫	アガサ・クリスティ	東京創元社	933
彼女の思い出/逆さまの森	J.D.サリンジャー	新潮社	933
こどもに聞かせる一日一話	「母の友」編集部	福音館書店	E913

図書委員オススメの本

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見夏衛・著 (スターツ出版)

みなさんは、戦争についてどのようなイメージを持っていますか? 私はこの本を読む前まで戦争についてあまり知らなかったけど、この本を読んで人と離ればなれになってしまう残酷さや、今ある生活は決して当たり前なことではないということに深く実感しました。例えば今の私たちは白米を食べ、甘いものを毎日普通に食べることができるけれど、戦時中の人たちは白米を食べられるのはごく少数で、お金持ちの人だけだったそうです。甘いものといえば今の私たちはチョコやアイスを想像すると思いますが、当時でいうとキャラメルやかき氷のことを甘いものというそうです。このように、今の生活とは全く異なる生活の様子がこの本を読めばわかると思うのでぜひ読んでほしいです。また最も印象的だったのは、何も悪いことをしていない人が愛する家族の元を離れ、特攻という自分の命を犠牲にする場面です。この場面は本当に感動するし、当時の国の無力さが表現されていてとても心に響きました。戦争を経験した人が徐々に少なくなっていく社会で、この本を読んで戦争について深く学んでみませんか?

『夢へ翔けて』 ミケーラ・デプリンス著 (ポプラ社)

ロシアによるウクライナ侵攻から早、半年以上が経ちました。家にある本の中で、戦争・紛争について取り扱っている数少ないうちのこの本を推薦したいです。著者であり、この本の主人公のミケーラはアフリカで生まれ育ち、小さいうちに父と母を亡くしました。その後孤児院へ入り、そこで拾った雑誌をきっかけにバレリーナを目指すようになります。生まれつき皮膚がまだら模様であることやミケーラが黒人であることなどをきっかけに差別を受け悲しむこともあります。それでも前へ、バレリーナを目指すミケーラの姿にこの本を読んだ人は勇気づけられると思います。小さい頃にバレエを習っていた姉が買ってきた本で、最初は「ただバレリーナを目指す物語」だと思っていたのですが、読み進めるほど、戦争の深刻さや辛さに胸が痛くなり、小さな理由で差別をし、されることに驚き、様々な感情が芽生えました。また「多様性」が謳われているこの時代にもぴったりなお話も載っています。初めて読んだ時と今この本を読むのでは読み終わったあとの気持ちが違って面白かったです。「また読みたいな」と思える本だと思います。



『容疑者Xの献身』東野圭吾・著 (文藝春秋)

この本は殺人を犯してしまった母娘と、それをかばおうとする天才数学者を描く本格派ミステリーです。この本は探偵ガリレオシリーズという東野圭吾さんのミステリーシリーズの内の一冊なのですが、探偵役が同じなだけで前後のつながりが薄く、一冊で完結しているので前の方から追わず、この本から読み始めてもよいと思います。

この本の面白いポイントは二つあると思います。一つめは最後の最後までわからない天才数学者、石神の使ったトリックです。石神は自分が密かに恋心を抱いているアパートの隣の部屋の花岡親子が殺人を犯したことを察し、自らが手伝うことを提案し、そこから花岡親子が捕まらぬよう事件に関わるのですが、読んで最後の最後までトリックがわからなかつたです。事件の真実が明かされる時、きっとその壮大さに驚かされるでしょう。二つめは石神の愛の深さです。自分が報われなくてもいい、ただ自分の愛する人が幸せならそれでいい、という石神のスタンスがとてもかっこよく見えました。みなさんも是非、読んでみてください。

『5分後に意外な結末』桃戸ハル・編著 (学研)

現在この本は、小中高生、大人までも読んでとても人気の本です。この本の特徴としては、ひとつの話を“5分”で読むことができる点で、飽きっぽい現代の人にはぴったりな本だと思います。実際、私もとても飽きっぽい性格で何かすぐ読める本はないかなと探していたところ、この本を見つけました。その中でも私が好きな話は、男の子が父親の1時間を買うという話です。これは仕事で忙しい父親が子どもと遊ばず、その子どもがいろいろな人からお金を借りて父親の時給である30ドルを父親に渡し、子どもが父親の1時間を買うという話です。私はこの話をみてそれほどまでに父親が好きなのかととても感動しました。こういった話以外にも、面白い話、悲しい話、楽しい話などさまざまなジャンルを詰め込んだ本となっているため、ぜひ読んでほしいです。

『スーパーカブ』トネ・コーケン著 (KADOKAWA)

この小説は、とある高校生が主人公の小説で、ある日ホンダが出ているスーパーカブに会い、そこから孤独だった主人公がスーパーカブと共に生活していく中で、たくさんの人に出会い、たくさんの経験をして成長していく物語です。この小説は漫画も出版されているので、小説を読むのが苦手な人はそちらもおすすめです。ぜひ読んでみてください。